

「大学病院におけるポリファーマシーの実態調査」に 対するご協力のお願い

研究責任者 大谷 壽一
研究機関名 慶應義塾大学病院
(所属) 薬剤部

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2021 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日に入院した 65 歳以上かつ 1 週間以上入院した方

2 研究課題名

承認番号 20231064

研究課題名 大学病院におけるポリファーマシーの実態調査

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学病院薬剤部

研究責任者

(部長) 大谷 壽一

4 本研究の目的、方法

年齢を重ねるにつれ、複数の病気を患い、受診する医療機関が複数になることは薬が増える原因となります。また、高齢になると肝臓や腎臓の働きが弱くなり、薬を分解したり、体の外に排泄したりするのに時間がかかるようになります。このような状態で、薬の数が増えると薬同士が相互に影響し、薬が効きすぎてしまったり、効かなかったり、副作用が出やすくなったりすることがあります。単に服用する薬の数が多くだけでなく、多くの薬を服用しているために、副作用を起こしたり、きちんと薬が飲めなくなったりしている状態をポリファーマシーといいます。

そこで本研究では、当院に入院された患者さんのポリファーマシーの実態について患者さんの診療情報を調査することで、今後どのように対応していけば患者さんの内服の負担軽減につながるかを検討し、将来の患者さんにより安全で質の高い薬物療法を提供することができるかを検討していくことを目指します。

5 協力をお願いする内容

診療記録からの下記情報の提供

- ・患者基本情報（年齢、性別、診療科、入院に至った主病名、併存疾患、入院後発症した疾患、入院期間、入院元、退院先）
- ・使用している薬剤の名称とその用法用量（入院時と退院時）
- ・薬剤や転倒等の副作用に関するインシデント・レポート

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2026 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当なし

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

慶應義塾大学病院 薬剤部

東京都新宿区信濃町 35 番地

電話：03-5363-3698（慶應義塾大学病院診療日 8:30～17:00）

担当者：西木 美優（分担者）

以上